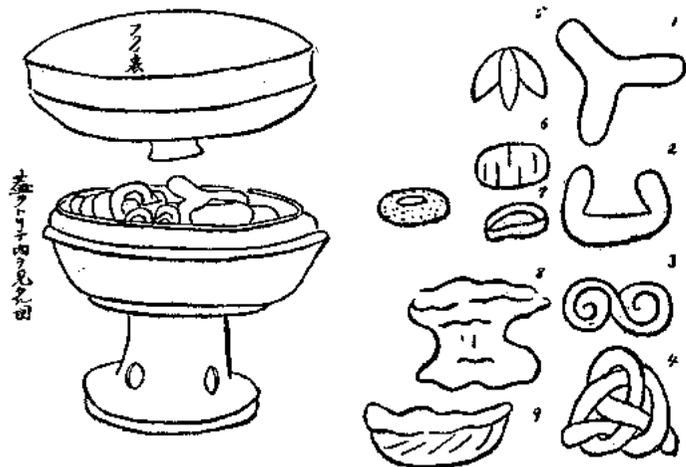


今から約 1,600 年前、古墳時代中期の中ごろに、陶質土器を作る技術が朝鮮半島南部から倭（日本）へ伝えられて、須恵器（倭風の陶質土器）が作られるようになりました。須恵器の作り方が伝えられただけでなく、朝鮮半島南部の加耶・新羅・百済地域などで作られた陶質土器も日本へもたらされました。栃木県域の古墳時代集落でも加耶陶質土器や百済南部地域の陶質土器が出土しています。古墳時代終末期の終わり頃や奈良時代には、河内郡や芳賀郡の遺跡で新羅土器が出土しています。

古墳時代の中期には、大阪府南部にある堺市や和泉市周辺の丘陵地帯にある窯跡で作られた須恵器が、日本の各地で数多く出土しています。古墳時代後期（約 1,400 ～ 1,500 年前）には、東海地方や群馬県地域でも須恵器が盛んに作られるようになりました。古墳時代後期末（約 1,400 年前）には、栃木県域でも須恵器が作られるようになります。

須恵器の高杯は、古墳時代中期には脚が低くて器が大きく、安定した形をしています。後期になると高杯よりも杯が一般的な食器になり、高杯は脚が細長くて器が小さく作られるようになるので、お供え・お祭り・葬儀に高杯を使うことが多くなったと考えられます。古墳時代終末期の須恵器高杯は、透孔（小孔）や透窓（四角い大きな孔）を脚にあけないものが多くなります。

食物を盛りつけた高杯^{たかつき}



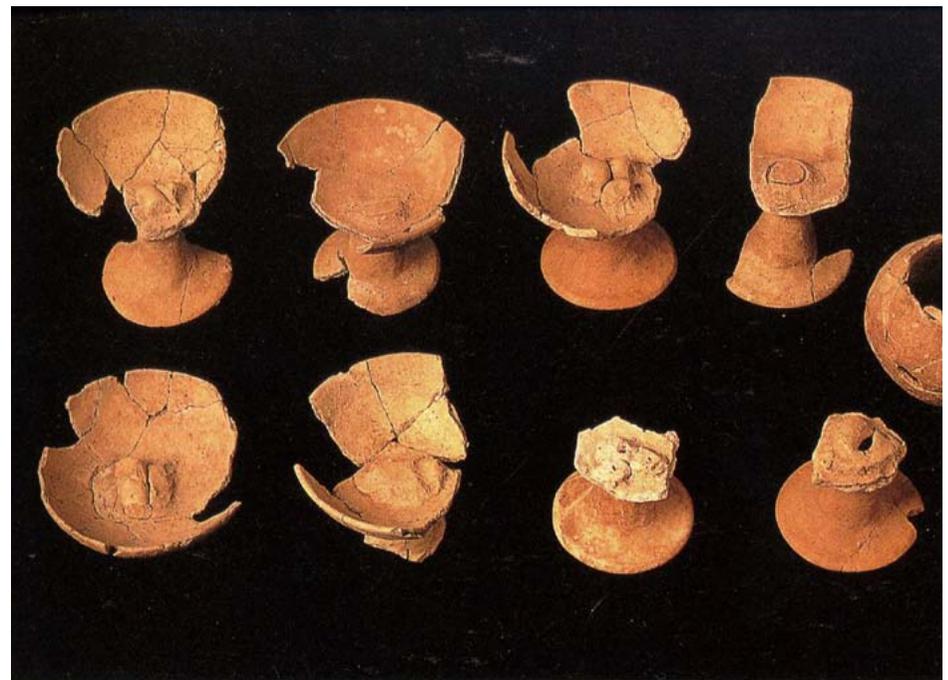
土で作ったお菓子の模造品を須恵器の高杯に入れて
葬式に使ったものと考えられます。

愛知県渥美郡の古墳で明治11年ころに発掘された
当時の写生図です。

清野謙次「古墳から発掘せられた土製の索餅類似品
(模造の餅と菓子)」『人類学雑誌』60-3(1949)より

土師器の高杯に食物を盛った状態を
表しています。

群馬県前橋市舞台1号墳出土品
『舞台遺跡』群馬県教育委員会(1995)より



朝鮮半島からもたらされた高杯の蓋たかつきの蓋ふた

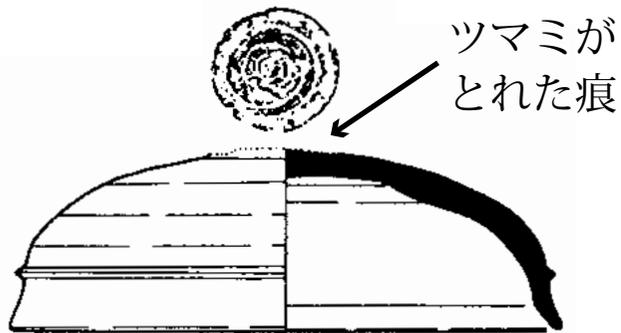
かやとうしつどき
(加耶陶質土器 約 1,550 年前)

二ノ谷遺跡の蓋は、日本で作られた初期の須恵器と
考えられていましたが、現在は加耶（韓国南部）の
土器と考える意見が有力です。

文様がある蓋



文様がない蓋



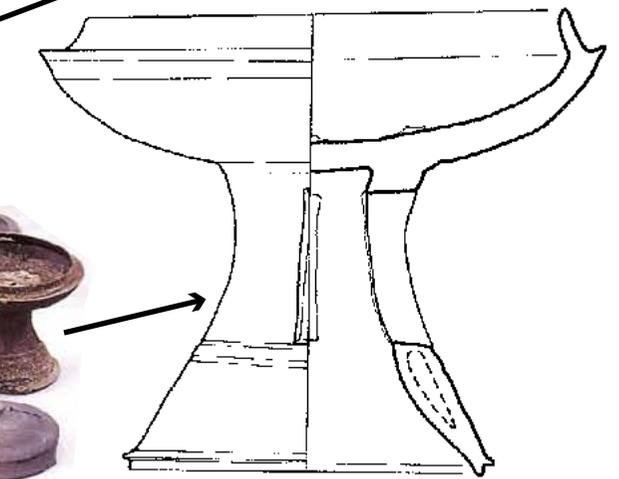
(展示しています)

栃木県下野市二ノ谷遺跡

D5-SI002

(古墳時代中期)

文様がない蓋

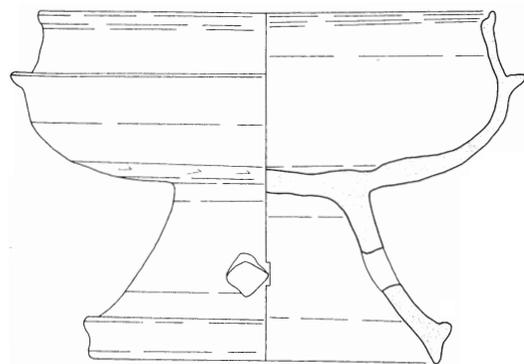


ハマントハンニ
韓国・慶尚南道 咸安道項里3号墓

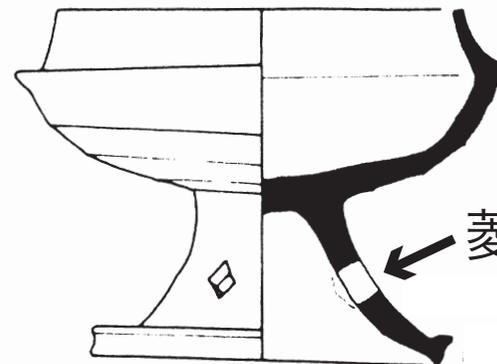
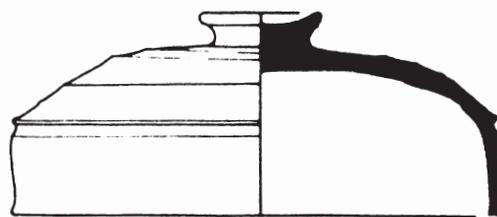
(三国時代 加耶地方)

近畿地方で作られた須恵器高杯 大阪府陶邑窯産 古墳時代中期
(約1,550年前)

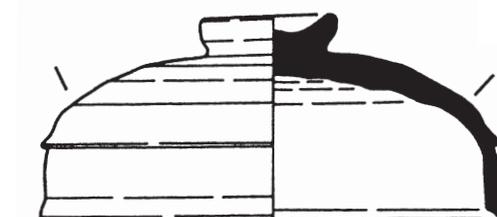
菱形の透孔が特徴 大阪府南部にある大野池地区の窯で多く作られました



熊本県和水町
江田船山古墳



大阪府和泉市
信太山4号窯

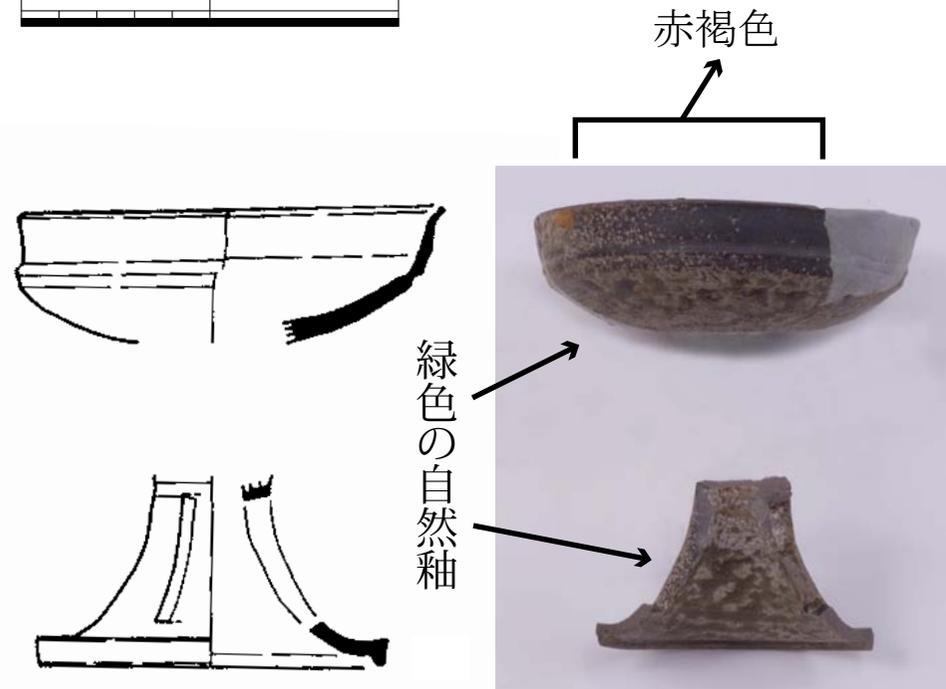


宇都宮市
権現山遺跡
B区SZ-003
(展示しています)

東海地方で作られた須恵器高杯^{たかつき}

古墳時代後期（約1,400年前）

暗い緑色の自然釉と、赤褐色に発色する素地土が特徴



宇都宮市
塚原1号墳
(展示しています)

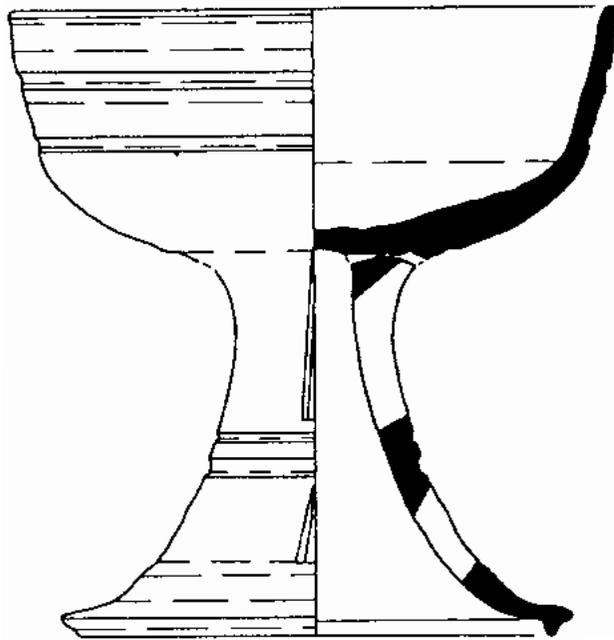


愛知県名古屋市
高蔵1号墳

栃木県域で作られた須恵器高杯^{たかつき}

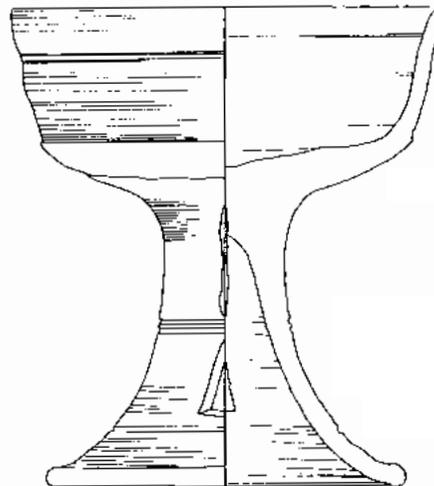
古墳時代後期末～終末期初め
(約1,400年前)

大きく開く短い脚部と、深い杯部が特徴



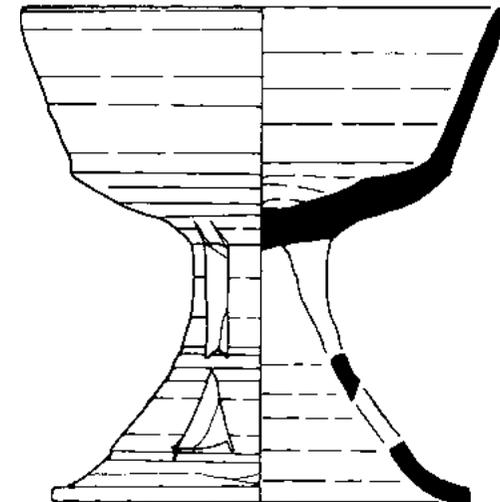
野木町
野木III遺跡
SI-08

(展示しています)



市貝町
町出口遺跡
1号住居跡

(展示していません)



宇都宮市
砂田姥沼遺跡
1区SI-9

(展示しています)

